

平成30年度 前期始業式 式辞

今日から新学期です。昨日、229名の新入生を迎え、香風高校に活気のある学校生活が戻ってきました。新年度という節目を迎え、皆さんには、あらためて自分の夢や目標を持って、その実現に向けてがんばってほしいと思います。

新年度の始まりにあたり、みなさんと一緒に考えたいことがひとつあります。

昨日の入学式で、香風高校の最大の特徴は「多様性 (Diversity)」であるというお話をしました。新入生のみなさんは「そういえば、そんな話があったな」と思い出してくれるでしょうし、上級生のみなさんは「そんなことは、とくに知ってるよ」と思うかもしれません。

多様性があるということは、姿かたちが異なるというだけでなく、当然、考え方や価値観も色々ということです。家族や仲のよい友だちであれば、その人がどんな考え方や価値観を持っているのか、おおよそ見当がつくでしょう。「言わなくてもわかる」関係といえます。

ところで、私は、今、鷺田清一（わしだ きよかず）という人の『しんがりの思想』（角川新書）という本を読んでいます。鷺田氏は哲学者で、京都市立芸術大学の学長をしている人です。鷺田氏はこの本の中で、「言わなくてもわかる」とは逆の関係について、次のように言っています。



私たちがこれから紡いでゆかなくてはならないのは、思いをきちんと口にすること（あるいは、安心して思いを口にできるような場を開くこと）であり、また言葉にならない思いにきちんと耳を傾けることのできる、そんな関係であらう。

この文章を読んだとき、私は香風高校のことを思いました。みなさんにとって、香風高校で学ぶ生徒の大半は見知らぬ人たちです。でも、「知らない人は関係ない人」と考えず、知らない者同士が、どうすれば心安らぐ学校、勉強に打ち込める教室を作り出すことができるのか。これが、私がみなさんと一緒に考えたいことです。

たとえば、授業中のスマホです。「静かに使っているから、誰にも迷惑をかけていない」と思っている人もいるかもしれません。しかし、学習する空間はみんなで作り上げるものです。先生方はそのことを、口に出してみなさんに伝えます。その思いを受けとめてください。口には出さないけれど「授業中のスマホはやめてほしい」と思っているクラスメイトがいるかもしれません。その言葉にならない思いに耳を傾けてください。

授業中のスマホはあくまで一例です。私は香風高校で学んだみなさんには、考え方や価値観が異なる多様な人々が、共に幸せに暮らすことができる社会を作ろうとする人になってもらいたいと願っています。そのためには、まず香風高校で、ひとりひとりにとって、楽しく、心安まり、目標に向かってがんばることができる場所をどうやって作り上げていくのかを、みなさんと一緒に考えていきたいのです。

学校は生徒のみなさんが主人公です。今、ここにいるすべてのひとの思いや行動によって、香風高校のよき1年がスタートすることを願っています。